

個別支援シート（就学前の機関用） A 記入例

※一例として案を示す。

(ふりがな)		性別	生年月日
幼児氏名	〇〇 〇〇	〇	平成〇年〇月〇日
障害等の状況	・広汎性発達障害、ADHDの疑い(〇年〇月〇日、 〇〇病院、〇〇Dr.) ・健診の結果 1歳半健診検診:異常なしと言われた。 3歳児健診:発話や言葉の理解について指摘。	手帳等	(平成 年 月 日交付) 手帳の取得はない。
住所	・ ・ ・ ・ ・	連絡先	(自宅)XXX-XXX-XXXX
保護者氏名	〇〇 〇〇	緊急連絡先	(母親携帯) XXX-XXX-XXXX

	支援機関／担当者／連絡先	具体的な支援内容・所見等
在籍園	〇〇市立〇〇幼稚園 担任〇〇〇〇 園長〇〇〇〇 Tel:XXX-XXX-XXXX	・個別支援シートを作成する。 ・指導目標を設定し、園の教員で共通理解して指導にあたる。 ・保護者との教育相談。月1回の参観の後に話し合う。 ・支援員のサポートも。
医療・療育機関等	〇〇病院 小児科 〇〇〇〇Dr. (主治医) Tel:XXX-XXX-XXXX 〇〇療育センター 〇〇〇〇言語聴覚士 Tel:XXX-XXX-XXXX	・月1回通院。 ・薬の処方。量について調整中。(薬名:□□□□□) ・月2回通所 ・言語の指導。発音訓練、落ち着いたやりとり等に取り組む。 ・「ゆっくり、短い言葉で伝えてあげるように」
保健・福祉	〇〇市健康福祉課 〇〇〇〇保健師 Tel:XXX-XXX-XXXX	・2歳の時から、保護者の相談役としてサポート。 ・「個別の支援計画」を作成。 ・本人の適切な就学についても話し合う。
その他	〇〇市教育委員会専門家チーム (〇〇教授、〇〇指導主事、〇〇教育相談員、〇〇保健師・・・) (教育委員会Tel:XXX-XXX-XXXX)	・年3回程度 ・本人の様子を参観。行動の様子を観察。 ・個別支援シートの確認と評価。 ・支援会議への参加

支援会議（予定も含む）		
日時	参加者	協議内容・引継ぎ事項等
□年 □月□日	〇〇市教育委員会専門家チーム (〇〇教授、〇〇指導主事、〇〇教育相談員、〇〇保健師・・・)	・園生活での集団活動における配慮事項を整理し直す。 ・順番待ちの時や他児との接触の多い場面では支援員が近くで対応を。・・・ ・次回の開催予定は□年□月□日

個別支援シート(就学前の機関用) B 記入例

		からだ・せいかつ		コミュニケーション		好きなこと/きらいなこと、行動のようす	
		からだ・健康	日常生活	人とかかわり	コミュニケーション	好き・とくいなこと きらい・にがてなこと	行動のようす
保護者から	実態について	概ね元気。動きすぎて疲れやすい。	着替え等は自力でできた。「いやだ」と言い始めると頑固。	友達は好き。関わっていききたいが、力ツとすると手が出てしまう。	だいたい会話はできる。時々伝わっていないと感じることがある。	水遊びが好き。虫や動物が好き。服のタグや感触にこだわる(苦手)。	好きなことをやめられない。無理に止められるとパニックに。
	願い	・友達と仲良く行動できるようになってほしい。友達を叩いたりしないようになってほしい。 ・いろいろなことに興味をもって取り組むようになってほしい。					
幼稚園 保育所等から	実態について	・外から帰った後やトイレの後の手洗いが定着していない。 ・手洗いやうがいなど、技能的にはできる。	・持ち物の片付け等、周囲の様子が気になると集中できない。 ・手順を理解すると、進んで取り組める。	・集団遊びに入っていくにくい。 ・友達に関わりたい気持ちはある。 ・自分の得意なことを友達に教えようとする。	・教師の話を最後まで聞けないことが多い。 ・理解できる言葉は多い。	・興味関心の幅が狭く、好きな遊び以外には参加しようしない。 ・好きな本や玩具では続けて遊ぶことができる。	・順番を待てないことが多い。 ・割り込んだり、叩いたりする。 ・優しい女児の声かけには応じやすい。
	つけた力	・トイレの後や入室時に手を洗おうとすることができる。	・自分の持ち物を決まった場所に片付けることができる。	・友達と一緒にできる遊びやグループ活動を増やす。	・話す相手の方を見て話を最後まで聞くことができる。	・教師との関わりを通して、好きな遊びや活動を見つける。	・順番を守って遊ぶことができる。
	支援の手で	・手洗いのイラストをカードを見せて誘う。 ・教師が「次は何をするのかな」など声をかける。 ・友達の手洗いの様子を見せながら誘う。	・教師が声かけをして誘う。 ・片付け場所が分かりやすくなるような環境に工夫する(イラスト等をつける)。 ・朝のしたくの活動時の動線を短くする。	・教師が本児と遊びを共有してから、集団遊びへと広げていく。 ・本児の好きな遊びに他児を誘う。 ・友達から声をかけてもらう。 ・遊び方やルールを丁寧に教える。	・話の最中に名前を呼んで注意を喚起する。 ・ポイントを絞って話す。 ・先生の近くに座らせる。 ・「○○君すごいね」とほめながら話す。	・好きな本を主題にした劇遊びや人形遊びなどを工夫する。 ・動物に触れる活動を通して世話や片付けに誘う。 ・友達が遊んでい様子を見せてから誘う。	・列の後ろに並ぶなど、その都度確認する。 ・仲良しの集団で、短い待ち時間から経験する。 ・できるだけ教員が目届くようにする。
就学に向けて		大切にしてきたこと・支援のポイント		就学後の支援に向けて			
	保護者より	・出かける前には、写真や絵で何をするか説明するように心がけた。 ・できるだけ、きちんと向き合って目を見るようにして話しかけるようにした。		・初めてのことや慣れない活動の際には、先に先生から何をするのか教えてやっておいてほしい。 ・大勢の中でもしっかりと話が聞けるようになってほしい。			
	幼稚園 保育所より	・言語指示だけでは活動に取りかかりにくい場合には、他児の動きを見せてから活動するようにしたり、写真カードや絵カードを使うようにした。 ・教室内の視覚的な刺激はできるだけ減らすようにして、環境を整えた。 ・自信と意欲を持って取り組めるように、得意なことを取り入れた活動を意識した。		・モデルとなる友達の近くで活動できるような人的環境が望ましい。 ・教科によっては視覚的な手がかりによって、活動内容の理解が進み、主体的な活動につながりやすい。 ・窓際の席や後ろの席だと、気持ちが集中しにくいと思われる。 ・できるようになったことを称揚し、次の活動への意欲を維持することが必要。			
	医療・療育機関より	○○病院 ○○Dr 「服薬の調整はうまく進んでいる。落ち着いて話に耳を傾けることをしっかり経験させていくことが大事。」 ○○療育センター ○○言語聴覚士 「苦手だった音の発音がしっかりとできるようになってきた。理解言語も豊かになってきた。支援者が早口で話す場合や本児の聞く態度が整っていない場合は内容が十分に聞き取れていない。」					
引継事項(就学後に、引き続き支援が必要な内容や配慮事項)							